

Ⅱ 浅海増養殖試験事業

3 魚病検査

小 川 健・木 村 創

目 的

海面魚類養殖における病魚の検査・診断をおこない、適切な魚病対策を指導する。

方 法

調査依頼のあった病魚について、常法により細菌・寄生虫検査を行い、症状の観察と併せて診断し、分離菌は必要に応じてディスク法による薬剤感受性調査を実施した。

結 果

本年度の病魚持込は105件で、他にアワビが1件あった。内訳はブリ23件、マダイ24件、ヒラメ25件、トラフグ21件、シマアジ7件、マハタ3件、オニオコゼ1件および海面飼育のギンザケ1件である。

魚種別・月別病魚検査件数は表1のとおりで、ブリでは α 溶血性連鎖球菌症が最も多く、合併症を含めて13件あり、ほかに β 溶血性連鎖球菌症も1件みられている。マダイではビブリオ病が例年のとおり多いが、本年度は種苗生産過程の仔稚魚の持込みが多く、これにみられたエピテリオシスチス類症、イクチオボド症が目立った。ヒラメでもビブリオ病が8件と最も多いが、やはり種苗生産時の稚魚に多くみられ、養殖魚では滑走細菌感染症に連鎖球菌症の病魚が持込まれた。トラフグはビブリオ病も4件あるがトリコディナ症等の寄生虫性疾病が多く、エピテリオシスチス症を併発しているものもあった。シマアジのビブリオ病、滑走細菌感染症は沖出し飼育中の人工種苗に発生したもので、10%近い被害があったが、トリコディナ症とシマアジヤドリムシ症はとくに斃死はなかった。ギンザケは冬の低水温期に海面飼育を行って翌年の春に出荷するため、平均体重150gの種苗を導入したものであるが、海面飼育開始後からVibrio anguillarum血清型Cによる斃死が出始め、なお、アワビについては、県栽培漁業センターで生産した5～11mmの稚貝が衰弱して大量に斃死するとのことで調査したが、原因となるような細菌・寄生虫はみられなかった。

図1に平成元年度の持込病魚検査結果による県内魚病分布を示した。

表1 魚種別・月別病魚検査件数

魚種	病名	1989年												1990年			計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3月				
ブリ	ビブリオ病				1												1
	類結節症				1	1	1										3
	ク・ビブリオ病				1												1
	連鎖球菌症 (α)				1	2	5	1	1					1	1		12
	ク・ビブリオ病						1										1
	ク (β)						1										1
	ミコバクテリア症								1								1
上湾症						2									1	3	
	小計			4	3	1	0	2	1				1	2		23	
マダイ	ビブリオ病	1					1							1	2		5
	ク・エドワジェラ症											1					1
	ク・エピテリオシステイス類症		1														1
	滑走細菌感染症	2															2
	エドワジェラ症									2							2
	細菌感染症				1									1			2
	イクチオボド症	1															1
	ク・エピテリオシステイス類症		1														1
	エピテリオシステイス類症		1														1
	繊毛虫症 (白点病)						1										1
不明	1	1			2	1	1								1	7	
	小計	5	4	1		4	1	1	2	1			2	3		24	
ヒラメ	ビブリオ病	3								1	2	1	1				8
	ク・滑走細菌感染症	1	1														2
	ク・連鎖球菌症					1	1										2
	滑走細菌感染症	2															2
	連鎖球菌症								1								1
	イクチオボド症														1		1
	トリコディナ症			1													1
	腸管白濁症・腹部膨満症													1			1
不明	1							1			1	3	1			7	
	小計	7	2			1	1	2	1	2	2	5	2			25	
トラフグ	ビブリオ病	1						1				1	1				4
	トリコディナ症		1					1			2	1	1				6
	トリコディナ・ギロダクチルス症		1									1					2
	トリコディナ・ギロダクチルス・エピテリオシステイス症							1									1
	トリコディナ・エピテリオシステイス症										1						1
	トリコディナ症・白点病						1										1
	スクーティカ症					1											1
	チョウチン病			2						1	1		1				5
	小計	1	2	2	1		3	1	1	4	2	3	1			21	
シマアジ	ビブリオ病			2													2
	滑走細菌感染症		1														1
	トリコディナ症							1									1
	シマアジヤドリムシ症						1										1
	不明													2		2	
	小計		1	2		1	1							2		7	
マハタ	スレ							1	1							1	1
	不明							1	1								2
	小計							1	1					1		3	
オニオコゼ	栄養性疾患										1						1
ギンザケ	ビブリオ病										1						1
アワビ	不明													1			1
合計		13	9	9	4	16	9	6	4	9	4	11	12			106	

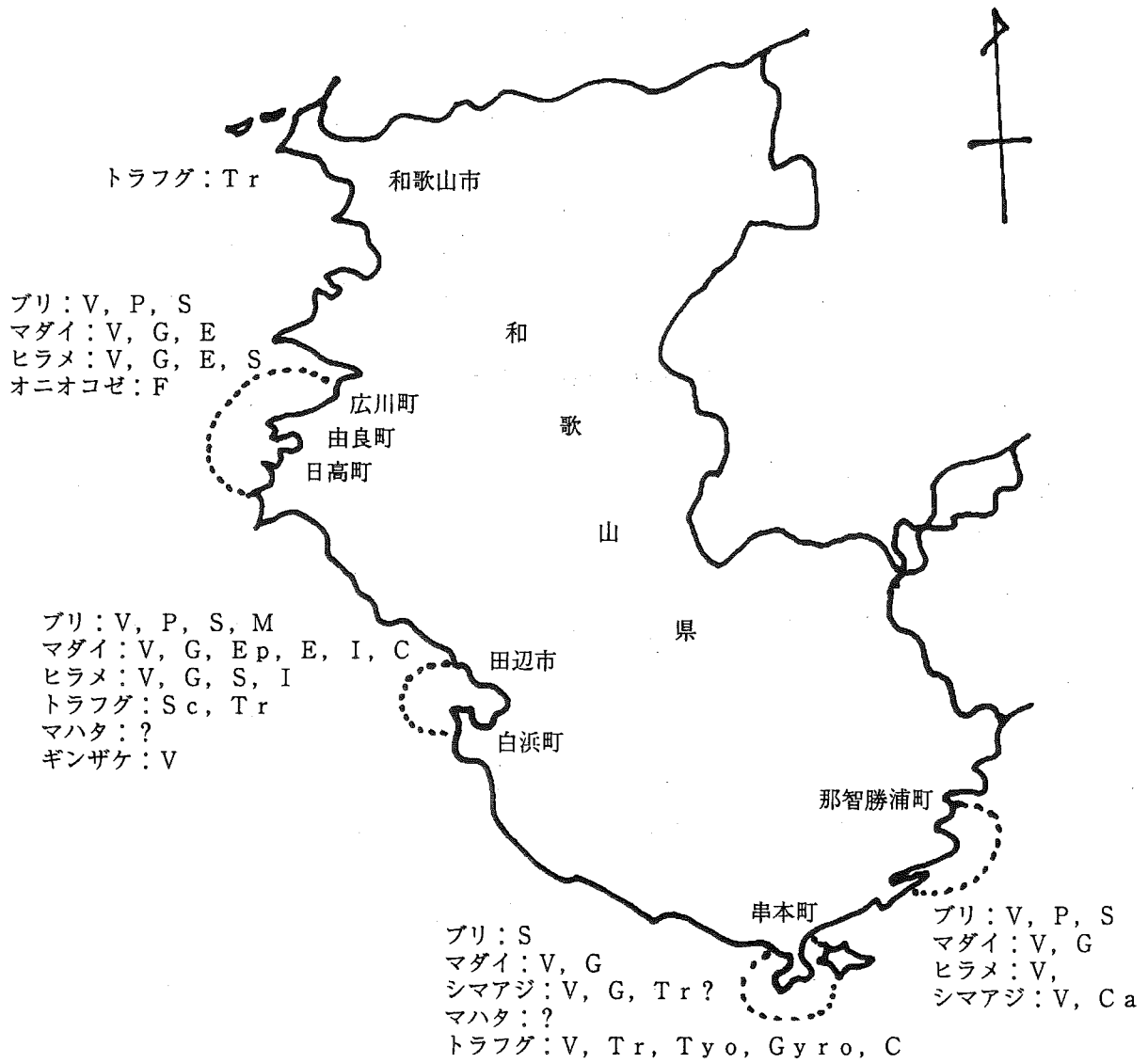


図1 県内魚病分布

V : ビブリオ病
 E : エドワジェラ病
 I : イクチオボド症
 Sc : スクーティカ症
 Gyro : ギロダクチルス症

P : 類結節症
 G : 滑走細菌感染症
 Ep : エピテリオシステイス症
 Tr : トリコディナ症
 Ca : カリグス症

S : 連鎖球菌症
 M : ミコバクテリア症
 C : 白点病
 Tyo : チョウチン病
 F : 餌料性疾患